

令和5年度 学校経営方針

1 経営の基底

この3年間、新型コロナウイルス感染防止対策のため、オンライン授業や、団らんのない給食、3密回避の工夫など、やらない・できないではなく、目的達成のためにどうやって適切に進めていけるか「学びを止めない」ための想像力が私たちに試されてきた。

また、世の中は Society5.0 (超スマート社会) が訪れ、将来今ある職業の半分が無くなると言われている。AI などの普及により、今まで人間が行っていた業務がとって替わられるという。そういう未来の中で、自らの夢に胸を膨らませ挑戦し実現する人、他者と協働し社会に貢献する人の育成が求められている。以前のように教師が一方的に教え、同一性を重んじる教育では立ち行かない。多様性を尊重し、仲間と支え合い、自ら行動できるよう学校教育は変わらないといけない。

そのためには、一昔前の教育を受けてきた教師は、今まで自分が受けてきた教育から脱皮しなくては行けない。新学習指導要領3年目となるが、評価の仕方を含め、まだまだ完全に進められたとは言い難い状況である。自らの指導力を高めていく研修は必須である。また、学校の状況を分析し、課題を明らかにし、PDCA サイクルで常に改善させながら指導していくことが必要である。そして、保護者や地域の願いを受け止め、その責任を自覚し、「生きる力」を持った子どもたちを育てていくことが教師の使命である。

この先、どのような社会・環境が訪れようとも常に課題を解決し、前進していく（生きる力を持った）人を育成するために、教師の経験や勘だけに頼らず、脳科学や心理学、教育研究の専門家の指導や教育推進校等からの実践等を研修し、本校の課題にあった教育を推進する。とりわけ、本校は不登校生徒やその予備軍が比較的に多い状況にある。間違ふことを恐れたり、集団としての信頼関係にも課題がみられる。もちろん、さまざまな理由や背景があるのだが、学校が安全で安心な場所であることは不可欠であり、また、自己肯定感を高める活動が日々行われることが必要である。

一方、教師の働き方改革は大きな課題である。すべての業務を一気に変えることは難しいが、前年度踏襲にとらわれず目的を見失わなければ、業務内容を改善できると考える。教師のワークライフバランスを整えてこそ、研修に励むことができたり、心に余裕のある指導が行える。また、人によって業務量が偏ったり、孤軍奮闘状態にならないためには、教師の協働性が要となる。

2 本年度の重点教育目標

友と学び、共に成長する

- (1) すべての教育活動を通して、自信を身に付け、困難なことにも立ち向かえる力を付ける
(自己肯定感・課題解決力・学びに向かう力)
- (2) 仲間を助け、仲間から助けられる経験を通して、協働して問題解決できる力を付ける。
(自己有用感・チームワーク力・リーダーシップ力・コミュニケーション力・多様性の理解・思いやり)
- (3) 対話的な学習活動を通して、コミュニケーションスキルを磨き、自分の思い（ヘルプを含む）を伝える力を付ける。
(コミュニケーション力・自己主張・感情コントロール・メタ認知)
- (4) 「協同学習」を取り入れた授業を通して、脳科学、心理学に基づいた指導で、学力の向上を図る。
(知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性を磨く)

3 本年度の重点経営方針

重点教育目標である「友と学び、共に成長する」を達成するために、次の重点経営方針を設定する。具体的目標は、「協同学習」を通して、安心・安全な学級作り、自己肯定感の向上、学力の向上、主体性の育成。キーワードとなるのは、教職員の「コミュニケーション」と「資質・能力の向上（研修の充実）」である。

(1) 安心・安全な集団の構築

- ア 学校生活の8割を占める授業で「協同学習」を行い、互いに貢献し合う学習活動を通して信頼関係を築かせる。
- イ わからない時は、「わからない」と言えて、教えてくれる集団を作る。
- ウ 対話的な学習活動では、話し合いのスキルを教え、相手の考えを批判しても、考えを述べている人を批判させない指導を行う。
- エ 仲間の理解も学習の目的に据え、仲間の成長を喜ぶことができる集団を作る。

(2) 自己肯定感の向上

- ア 「協同学習」から、互いの貢献による自己有用感と、仲間から認められることによる自己肯定感を向上させる。
- イ 話し合い学習ですべての生徒が平等に意見が言えるように授業計画を立てる。(いつも同じ人が教えられるというパターンにならないようにする)

(3) 自己理解と主体性の発揮

- ア 自分に合った学び方の認知。教師が決めつけない。
- イ 話し合い学習で他者の考えを通して違いを知り、多様性について学ばせる。
- ウ グループ学習を通して、自分の得手不得手を知り、協働作業に生かさせる。
- エ 学習後のまとめや振り返りを行い、自分は何がわかったのか考えさせる。また、グループ学習内での自分を振り返り、次の学習に生かさせる。
- オ 自分に合った家庭学習方法を見つけられるよう指導する。宿題の在り方、内容を検討する。

(4) コミュニケーション力の向上

- ア 「個人思考」まず自分で考えさせてから、話し合い学習で考えを言えるように授業計画する。
- イ 授業に「態度目標」も掲げ、コミュニケーションスキルを学ばせる。
- ウ アサーションについて学ばせて、適切な自己主張ができるようにする。

(5) 脳科学・心理学・専門家の研究を取り入れた根拠ある指導

- ア 脳科学より、記憶力を高めるために「先生や教科が好き」「興味がわく授業（導入・課題）」「アウトプットを増やす」
- イ 認知心理学より、知識を「関連付け」して覚えられるように計画する。
- ウ 認知心理学より、自分の得意な方法で覚えることができるようにする。
- エ 専門家や先進校から学ぶ。
- オ 「協同学習」オリエンテーションを行う。協同する意義のわからない人は効果が低い。
- カ 「アセス」「ハイパーQ-U」「NRT」等を参考にして、経験と勘だけに頼らない客観的情報による生徒指導・学習指導を行う。
- キ 「コーチング」や「カウンセリングマインド」を基盤においた言葉がけを行う。

(6) チーム小清水の結成

- ア 職員も協同的な関係を構築する。チーム力を発揮する。小ともチームに。
 - (ア) コミュニケーションを密にし、情報共有を図る。
 - (イ) 互いに高めあう職員集団の構築。
- イ 学校の応援団を増やす。
 - (ア) 保護者と学校が理解し合えるためには、説明責任を果たすこと。

- (イ) 生徒がどんな活動をしているか、広報する。(保護者・地域)
 - (ウ) PTA・学校運営協議会の協力を得る計画を立てる。
 - (エ) 地域事業所や地域の人々から学校を応援してもらうためのネットワーク構築。
 - ウ 専門家・専門機関との連携(スクールカウンセラー・網走養護パートナーティーチャー・保健師・福祉課・児童相談所・医療・警察・その他)
- (7) 不登校・別室登校・特別支援の必要な生徒の対応
- ア 本人の気持ちを大切にす。周りの大人で勝手に決めない。
 - イ 情報収集・分析・対応・評価を行い、最適な指導を目指す。
 - ウ 特別支援コーディネーターを中心に複数教員で対応する。
 - エ 専門家・専門機関・医療と連携する。保護者ケアの視点。
- (8) 生徒指導・いじめ・問題行動
- ア すべての行動には理由がある。情報収集と理由の仮説が必要。
 - イ まずは、本人の気持ちを聞く。話している途中で指導を入れない。(本人の言い分を聞いてあげることで、受容してもらったと感じ、自己反省へとつながる)
 - ウ 絵や文字を書き、本人にも視覚的に整理させながら、指導するとよい。
 - エ 保護者への報告はすぐに行う。加害者側でも、学校で起こってしまったことは学校の責任という姿勢で。一緒に問題解決しましょうの姿勢で。
 - オ アフターケアを行う。良い行動の時は認める(褒める)言葉をかける。被害者側には、定期的な声掛けがあるとよい(本人・保護者も)
- (9) 職員の働き方改革
- ア 業務内容の精選や効率化を図る。教育課程の見直し。
 - イ 学年・分掌内で協働して業務を行えるようにする。
 - (ア) 学年内での協働場面の促進。今まで担任の仕事とされてきた業務、例えば、教育相談や二者懇談、学級通信等などの分担を推進。学年全員で意思疎通を図り、学級経営を行う。
 - (イ) 分掌部内で、サブメンバーを決め、協働できる体制を作る。
 - ウ 業務内容や指導内容を誰でも見られるように記録し、共有に保存する。
- (10) 小中一貫教育
- ア 小中の課題の共有と重点目標の共有。
 - イ 合同研修等を通じて情報交流を密にし、9年間を見通した教育ができるようにしていく。
 - ウ PDCAサイクルで改善を図る。(町教育課程検討委員会)
- (11) 総合的な学習の時間・道徳・特別活動の充実
- ア 3学年で系統立てた内容の充実と計画の見直し。年間計画の作成。
 - イ 土曜授業の充実。楽しみにできる土曜授業。地域交流や保護者来校しやすい利点を生かす。
 - ウ 自治の力をつけられるようサポートする。生徒会活動・学級活動
 - エ 道徳の授業を通して、自己理解を深め、多様な価値観について指導する。
 - オ ソーシャルスキルトレーニングを意識した取組。
- (12) 健康教育の充実
- ア 保健体育・部活動等を通して、体力向上を図る。スポーツを楽しむ基礎を育む。
 - イ 食育・健康教育を通じて、健康に生きる基礎を育む。